

# 福祉施設入所者 「私も一票を」

## 県内不在者投票ピーク

特別養護老人ホームなど衆院選の投票所へ行けない人がいる県内約550施設で、入所者の施設内不在者投票がピークを迎えている。静岡市駿河区の施設では12日、4割近い入所者が「投票は国民の権利」と意欲的に投票に臨んだ。介護現場では人材不足が深刻になっているが、施設側は「入所者の意思をくみたい」と準備やサポートに全力を挙げる。



投票用紙の入った封筒を投票箱に投函する入所者

12日午前、静岡市駿河区の丸子の里

## 職員、サポートに全力

施設内不在者投票を行える施設は高齢者施設341カ所、病院174カ所、身体障害者施設25カ所など、県内に計548カ所ある。11、14日に行う施設が多いとみられる。

静岡市駿河区の特別養護老人ホーム丸子の里は12日、食堂に投票用紙の記入台や投票箱を並べて特設の投票所を作った。事前に職員が入所者約80人に投票したいかどうかを確認し、希望した約30人分の投票用紙をそれぞれの選挙人名簿登録地から取り寄せた。

希望者はこの日、時間をかけて選挙公報に目を通した上で、自ら鉛筆を握ったり、職員に代筆を頼んだりして投票用紙に記入した。封筒に入れて封をし、投票箱に投函(とうかん)した。

「施設の一大イベント。普段は控えめであまりしゃべらない方も選挙となると積極的になる。できるだけ希望をかなえてあげたい」と生活相談員の花田清二さん(52)。職員は即日、投票用紙入りの封筒を各市町の選挙に届けた。

投票を終えた杉山久子さん(85)は「戦後、女性も投票権を得た時は誇らしくうれしかった。以来欠かさず投票している。しっかりした候補者を選ぶのは、国にとって自分にとって大切なこと」と話した。

